

ゴールデンウィーク恒例、様々なジャンルのクリエイター100組によるアートフェスティバル

SICF12

(スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)

会場：スパイラルホール（スパイラル 3F）

会期：2011年5月2日（月）～5月5日（木・祝）

URL: <http://www.sicf.jp/>

スパイラルでは、5月2日（月）～5日（木・祝）にかけてスパイラルホール（スパイラル 3F）で SICF12 を開催します。

SICF（スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）は、東京・青山にある複合文化施設スパイラルが主催する公募展形式のアートフェスティバルです。さまざまなジャンルのクリエイター100組を選出し、スパイラルホールを舞台に、次代を担う新しい才能を紹介します。来場者の投票によって決まるオーディエンス賞をはじめ、毎年、各審査員賞、準グランプリ、グランプリが授与され、これまで数多くのクリエイターが活動の舞台を広げて活躍しています。

価値観を揺るがす 100 のクリエイションと出会う 刺激的な 4 日間、開幕！

既存のシステムが大きな転換期を迎えている現代。社会や経済から、私たちの生活スタイル、考え方に至るまで、多様なあり方が可能になりつつあります。そうした環境の中、時々刻々と変化する膨大な情報にさらされながら、今、クリエイターたちは、何を切り取り、何を生み出すのでしょうか。SICFにはジャンルの規定がありません。会場内には、絵画や写真、映像、プロダクト、音楽、ファッション、そのどれにもあてはまらないプレゼンテーションまで、同時代



を生きるクリエイターたちが投げかける自由でまっすぐな多様な個の表現があふれています。感じ、考え、想像し、形にする。そのプロセスをいくつも経てたどりついた作品は、時として、カテゴリーもこれまでの価値観も飛び越えて、観る者に強いインパクトを与えます。100のクリエイターと間近に話し、100のクリエイションに触れるなかで、昨日までとは少し世界の見え方が変わる、そんな作品との出会いを経験をすることができるでしょう。余暇を美術館やギャラリーで過ごすことがライフスタイルの一つとして定着してきている近年。ゴールデンウィークは、これまでに会ったことのない新しい才能がきっとみつかります。

この機会にぜひご取材、ご掲載をご検討ください。よろしくお願いいたします。

取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター 広報部 加藤美穂、清水さえみ、四元朝子（よつもと ともこ）

TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp/>

【NEWS】授賞式／審査講評をUstreamでライブ配信決定！

中継日時:2011 年 5 月 5 日(木・祝)20:00～21:00

URL: <http://www.ustream.tv/channel/sicf>

毎回、SICF 最終日に開催される授賞式。SICF12 では新しい試みとして、例年出展クリエイターのみが参加できる授賞式の模様を、Ustream を通じて生中継します。ご来場の皆様の投票によって決定するオーディエンス賞をはじめ、各審査員賞、準グランプリ、グランプリなどの審査結果を現場の臨場感そのままにご覧いただけます。

また、授賞式後に開催される講評では、日本のカルチャーシーンを牽引する審査員陣が、審査過程や評価したポイントを詳しく解説。一つ一つの言葉に今後のアートの潮流につながる重要なキーワードを含んだ審査員のコメントは、SICF12 出展クリエイターのみならず、アートファン、アート関係者の皆様まで必見です！

【審査員紹介】※コメントはSICF WEB(<http://www.sicf.jp>)より抜粋しました。

**浅井隆（有限会社アップリンク社長/webDICE編集長）**

プロとはなにかの定義はいくつかあるが、表現のスタイルは変われど、その根底にあることはブレずに執念を持って継続することはプロの条件の一つだろう。SICFも12回を迎えるのだから、新しい参加者ではなく、過去の入選者に期待することをエラそうに言うことにした。「継続は力なり」と。

**佐藤尊彦（ビームス 販売促進本部 プレス）**

この10年で夥しい量の情報が容易に得られる社会となった現在、様々な価値観が存在しています。そして情報の伝達スピードは加速し、国境を越えて情報が瞬時に世界を席巻しています。そんな状況のなか、自分を取り巻く世界から何を吸収し、感じ、考えて行動していくか。こうして形成される“個”の表現も、価値観同様に多様化しているのではないのでしょうか？

応募規定にカテゴリーがないSICFには、自由な表現を受け止める土壌が用意されています。時代に合ったコンペティションとして、今回も様々な表現に出会えることを期待しています。

**紫牟田伸子（デザインプロデューサー、ジャーナリスト）**

社会も経済も暮らし方も考え方も、多様なあり方が可能になりつつある現在は、既存のシステムも変わっていく転換期だろうと思う。だからこそ、考えることは面白いし、表現することには意味がある。クリエイティブであることはどんな局面においても大切なことだから、たくさんの個性と可能性を見たい。新しい思考と試行、想像と創造に出会いたい。ひそやかでもパワーを感じたい。これまでの枠組みをゆるがすような、新しいナニモノカと出会えることを期待しています。

**南條史生（森美術館館長）**

SICFは、アーティスト、クリエイターが、自分で自由に応募できるという意味で、開かれた発表の場であるといえるだろう。それだけに、これまでの判断基準や価値観で図れないもの、あるいは境界を超えていてジャンルのはっきりしない制作物でも出品できる。その意味では、実験的な作品を出しやすい場であるということができるだろう。だから、出品する応募者も、そのことを考え、意欲的な作品を持って応募していただきたい。私たち審査員も、このイベントについて、通常のアートやデザインの公募展のように考えていない。どんな破天荒で、元気な作品が出てくるのだろう、と期待している。今は国を挙げて、文化・芸術の振興に向かおうとしている。そんな状況の中で、ぜひとも、多くアーティスト、クリエイターに参加していただき、自分たちのアイデアを多くの人たちに問いかけてもらいたい。

**岡田勉（スパイラル チーフキュレーター）**

12回を数える本SICFの使命は1回目から現在まで変わりありません。それは「未知の才能との出会い」です。現代の我々を取り巻く環境はかつて人類が経験した事のないような速度で日々劇的に変化しています。表現を行うものの使命は、それを敏感に感じ取って、次代を切り開いてゆく事にあると考えています。閉塞感に満ちた現代であるからこそ、しがらみにとらわれない自由で鋭い感性に期待しています。

開催概要

会期 A 日程: 2011 年 5 月 2 日(月) - 3 日(火・祝) 11:00 - 20:00
 B 日程: 2011 年 5 月 4 日(水・祝) - 5 日(木・祝) 11:00 - 20:00 ※両日程ともに 50 組 2 日間ずつ

会場 スパイラルホール (スパイラル 3F)

入場料 1 日券: 一般 700 円 / 学生 500 円 フリーパス: 一般 1,200 円 / 学生 800 円

審査員 浅井隆(有限会社アップリンク社長、「webDICE」編集長)
 佐藤尊彦(株式会社ビームス販売促進本部プレス)
 紫牟田伸子(デザインプロデューサー、ジャーナリスト)
 南條史生(森美術館館長)
 岡田勉(スパイラルチーフキュレーター)

お問い合わせ先 03-3498-1171(スパイラル代表)

主催 株式会社ワコールアートセンター 企画制作 スパイラル

◆授賞式【ライブ中継(Ustream)】

2011 年 5 月 5 日(木・祝)20:00~21:00 URL <http://www.ustream.tv/channel/sicf>

同時開催

SICF11 受賞者展

SICF12 と同時開催で、前回の SICF 受賞者たちの新作を展示します。

会場 エスプラナード(スパイラル M2F)、スパイラルホール(スパイラル 3F)
 ※スパイラルホール(ホワイエ)の展示は、メイン会場内のスペースため入場料が必要です。

会期 2011 年 5 月 2 日(月) - 5 月 5 日(木・祝)

出展者 青木美歌(グランプリ) / 大石真央(準グランプリ) / 高野幸雄(オーディエンス賞) / 小林清乃(浅井隆賞) / イシカワナナ(佐藤尊彦賞) / okada mariko(南條史生賞) / 秋場康平(服部滋樹賞) / 藤田伸(スパイラルマーケット賞) / 川上幸子(スパイラル奨励賞) / 清水玲(スパイラル奨励賞)

【出展者 PICK UP】 大石麻央 SICF11 準グランプリ

SICF11 出品作品:『ほんとも、ほんとの、うそ』

「人はひとを好きになるとき、どこで判断するのか」。

大石の作品『ほんとも、ほんとの、うそ』は、そんなシンプルな問いかけからスタートしたパフォーマンスでした。

ブース内に同じくまのマスクをつけ、同じ服装をして佇む華奢な 2 人。1 体は作家本人、もう 1 体は立体作品です。

どちらがヒトで、どちらが人形なのか。どちらがほんもので、どちらがにせものなのか。そもそも何が「ほんもの」なのか。

性別、年齢、人種…、人であるかどうかさえわからない 2 体は、私たちが知らないうちに捉われてしまう「先入観」に気付かせます。



Photo: Katsuhiro Ichikawa

◆プロフィール◆

1986 年-神奈川県生まれ。

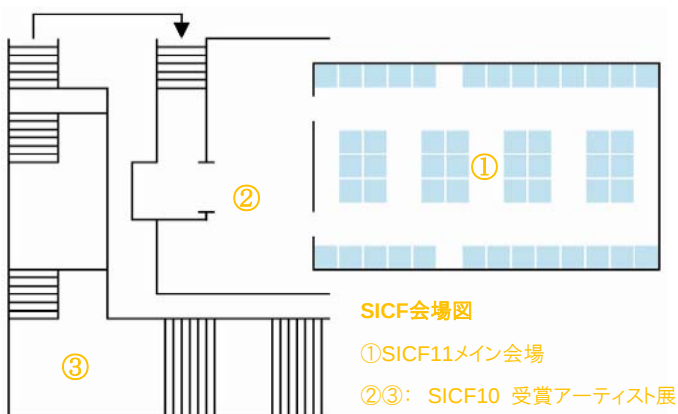
2011 年、武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース卒業。

個展に、2010 年「飛び立ち距離」(TWS 本郷・東京)。主なグループ展に、2010 年「SICF11」(スパイラル・東京)、「BLANKMUSEUM」(原美術館・東京)、Presentation & Exhibition / ARTCOURT Gallery (大阪)、2009 年「トーキョーワンダーウォール公募 2009」(東京都現代美術館・東京)、「中之条ビエンナーレ」(中田木材・群馬県)など

【参考資料】会場の様子（SICF11 より）

①SICF メイン会場(スパイラルホール内)

書類審査を通過した 100 組のクリエイターが、A/B 日程に分かれて 50 組ずつ登場！ジャンルに捉われない実験的な作品の数々は、驚きの連続です。展示ブースに常駐するクリエイターとコミュニケーションしながらお楽しみ下さい。



②③SICF10 受賞アーティスト展

スパイラルのエントランスから、SICF メイン会場のスパイラルホール(3F)までは、前回 SICF 受賞者による招待展示。新作が一堂に並びます。



Photos: Katsuhiro Ichikawa